

【研究テーマ】

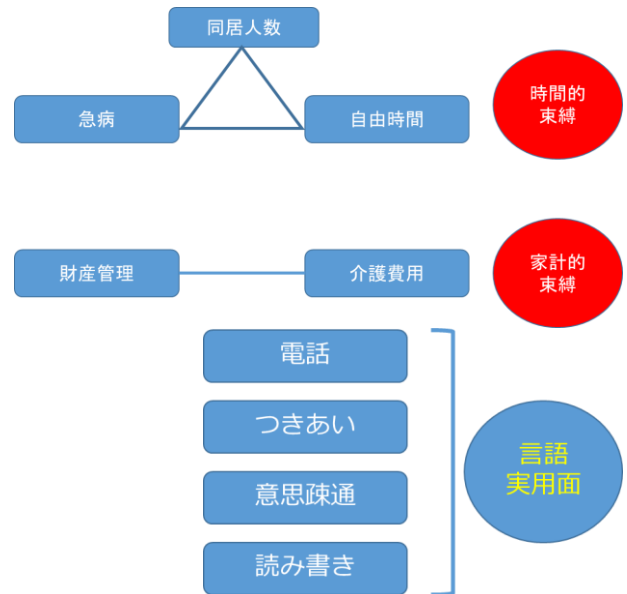
失語症訓練ソフト「言語くん自立編Ⅲ」を用いた慢性期失語症者の言語訓練効果

【研究シーズの概要】

2025年モデルに向かって医療・介護分野が激変している中、生活期へのリハビリ介入は立ち遅れている。2006年の介護報酬改定で訪問言語聴覚療法の介入が可能となったものの、実施機関が少なく介入不十分な状態である。このような状況下で在宅失語症訓練ソフトの開発が必要とされている。

元来、慢性期失語症者の訓練効果はほとんどみられないとされていた。しかし近年の研究では、慢性期の失語症リハビリの必要性が認識されつつある。我々のこれまでの調査では、失語症者を介護する家族の介護負担感、時間的拘束や経済的な不安のほか、言語面では意思疎通や電話対応などの実用的コミュニケーションに関する項目で高い数値を示した。

本研究の特徴は、在宅での自主訓練の効果検証を行う点である。さらに、訓練効果と家族の介護負担感、および家族状況や介護サービス利用状況などの相互の関係を多角的包括的に調査し、在宅での実用的なリハビリの一助としたい。



介護負担感の要因（谷，2017）

【産学連携のご提案】

本研究は、在宅での自主訓練効果が家族の介護負担感の軽減につながるのか調査する。その、自主訓練にシマダ製作所が開発した「言語くん自立編Ⅲ」を利用したい。対象者の失語症検査結果や家族へのアンケート結果から、①治療プランの立案 ②「言語くん自立編Ⅲ」上の自主訓練プログラムへの反映 ③対象者、家族への説明 を学生に実施させる。一定の治療期間終了後は、再度の失語症検査およびアンケートを学生が実施する。

本学の言語聴覚学科として「言語くん」という「ハイテクツール」を用いた教育を行っていることが、学生を獲得する基軸になればと考え、更に上記のことが実現できた場合、本学とシマダ製作所がwin-winの関係性を保つことができ、有益性が高いと考える。

【関連業績】

1. 谷哲夫：失語症訓練ソフト「言語くん自立編Ⅲ」を用いた慢性期失語症者の言語訓練効果—基礎データの調査報告—。群馬医学，106巻，2017
2. 谷哲夫：失語症訓練ソフト「言語くん自立編Ⅲ」を用いた慢性期失語症者の言語訓練効果。2016年度秋季群馬医学会，前橋，2016

【その他】

調査は「群馬失語症友の会」のほか、浜松市や近郊に在住の失語症者とそのご家族のご協力により実施されます。学生にとっては失語症を伴う方の生活環境に直接触れることができるので貴重な体験となるでしょう。